

## 式 辞

本日、東京農工大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。本年度の新入生は、学部では、農学部が三二七名、工学部は六二三名で合計九五〇名です。大学院は、工学府、農学府、生物システム応用科学府、連合農学研究科、および技術経営研究科の五つで構成されており、生物システム応用科学府に平成二二年度から新たに、早稲田大学との連携による共同先進健康科学専攻が設置されました。これらを合わせますと、博士前期課程七〇八名、博士後期課程一三三名です。これら学部、大学院全体を合わせた新入生の総計は一七九一名となります。この中にはアジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパからの留学生一〇五名が含まれております。東京農工大学の一員となられた一七九一名の皆さん、皆さんの東京農工大学への入学を心より祝福いたします。また、これまで側面から皆さんを支え、この日を待ちわびてこられたご家族の皆様をはじめとした関係各位のお喜びもひとしおと思います。心よりお祝い申し上げます。

さて、皆さんは本日より東京農工大学の一員として活動を始めるわけですが、皆さんはそれぞれ自らの人生における大きな目標を持ち、それを実現するための一つのステップとして本学で学ぼうと意欲に燃えていることと思います。これからの東京農工大学での勉学と生活にいかなる心構えで臨むかは、皆さんの将来を決定づけるほどに重要ですから、皆さん全員に有意義な大学生活を送っていただきたいと思います。

学部に入學された皆さんは、大学での教育は高等学校までの教育と大きく異なることをまず認識して下さい。大学では“一方的な知識の伝授”が主体ではなく、自ら主体的に学ぶ姿勢が要求されます。高等学校までは、一定の範囲内の知識を吸収し、理解できればよかったです。大学ではその範囲は無いに等しく、正解が不明な領域まで含まれます。学生諸君は自ら進んで考え、調べ、さらには新たな知を生み出すことまで要求されます。アメリカ合衆国の政治家で物理学者でもあったベンジャミン・フランクリンの言葉に、

『Education is the kindling of a flame, not the filling of a vessel.

(教育とは、炎を燃えあがらせることであって、入れ物を満たすことではない。)』という名言があります。知識の伝授ではなく、知識に対する興味・意欲を掻き立てるのが教育である、という意味です。大学での教育はまさにこの言葉に沿うものです。大学は皆さんの知的興味に火をつけますから、皆さんは知的興味の赴くままに熱中する四年間であってほしいと思います。同じフランクリンの言葉に、

『An investment in knowledge always pays the best interest.』

という言葉もあります。知識を増やすことに努力をすれば、それが将来大きな実りとなって帰ってくる、という意味です。高等学校時代までとは異なり、自分の意志で自由に大学生活を組み立てられる皆さんには、人生における大きな目標の実現のために、幅広い教養とこれから進まんとする分野の確固とした基礎力を身につける4年間であってほしいと念願いたします。将来、大きく成長するには学部時代にしっかりと学問の根を張っておくことが必要です。今日からの4年間が極めて重要であることを忘れないで下さい。学部教育

は、専門家となるのに共通して必要とされる農学や工学という広い分野の基礎力を蓄えることを主な目的にしております。

修士課程に進まれる皆さん、皆さんは学部時代に培ったその基礎力をさらに強固なものとし、皆さんが最も興味を抱く分野で高度な専門家といえるに相応しい実力を蓄えて下さい。専門家とはいえ、非常に狭い領域の専門家を意味しません。一つの具体的な研究課題に取り組む中で、複雑な要因が絡んだ中から本質を見極める科学技術者としての鋭い洞察力を身につけ、その解決方法を苦吟しながら見出して修士論文をまとめて行くその過程こそ重要です。その経験を経ることにより、広い分野で活躍できる高度な専門性と創造力を持つ技術者へと成長することができます。所属する研究室の同僚が取り組んでいる研究テーマ、さらには他の研究室で取り組んでいる研究テーマにも是非強い興味を持ち、議論をし、広い視野を身につけて下さい。豊富な科学技術上の課題と先端知が身近に存在し、皆さんが求めればそれらが得られる絶好の環境が大学です。この恵まれた環境を自らの成長のために大いに活用していただきたいと思います。

博士後期課程に進まれる皆さん、皆さんは科学者として瑞々しい好奇心に満ちていることと思います。研究の過程で意外なこと、予想外のことを見過ごさずに着目し、持てる知識を総動員し、あらゆる角度から考察を加えるという姿勢を常に持っていただきたいと思います。学会や研究会をとらえ、異なった視点を持つ他の大学の、あるいは海外の研究者と常に積極的に議論を行なう姿勢を持つようにして下さい。多様な考えを持つ人との議論が思わぬ着眼に結びつき、新しい研究の展開にも繋がり、多角度からの批判にも耐えられるゆるぎない芯の通った研究へと繋がり、そこに科学の花が咲きます。これこそ、皆さんが創造した新たな「知」であり、研究者としての最大の喜びを味わえる瞬間です。多くの喜びを体験し、世界に通用する研究者へと成長していただきたいと思います。

さて、本日より東京農工大学の一員として活動を始めるわけですが、皆さんが一堂に会する機会実は本日を除くと卒業式あるいは修了式しかありません。この貴重な機会には是非お話ししたいことがあります。

まず本学の基本理念についてお話いたします。本学の基本理念は MORE SENSE と略されます。この略称の由来については、ホームページなどで確認していただきたいと思いますが、これは東京農工大学における教育と研究、およびその成果を社会に還元することにより、循環型社会、持続型社会の構築に寄与し、美しい地球の持続に大きな役割を果そう、という壮大な目的を示したものです。地球温暖化、環境汚染、人口急増による食料不足、エネルギー不足など、人類の生存そのものを脅かす地球規模の大問題に我々は直面しております。これらの多くが農学や工学に密接に関係したものです。本学はこれらグローバルな問題の解決に中心的役割を果たす使命があり、循環型社会、持続発展可能な社会の構築に向けて大きく寄与していこう、という意気込みを示すのが MORE SENSE なのです。

この基本理念を組み込んだ本学のブランド・ステートメントがあります。それは、

『地球をまわそう MORE SENSE！ 農工大』

です。MORE SENSE という基本理念を具現し、人間の活動が他の生物とも調和し、地球全体がうまく循環したものになるようにそれぞれの立場で努力しよう、というものです。危機に瀕している地球を救えるかどうかは、結局は一人ひとりの生き方にかかっているといえます。皆さんにはこれから日々学ぶ中で、この基本理念である MORE SENSE が目指す精神を時々思い起こし、それを生き方の基本姿勢に据えた科学者・技術者に成長していただきたいと思えます。

次は本学のステータスについてです。本学はもうすぐ大学創起百四十年になる長い歴史と伝統のある大学で、この間、産業の基幹である農業と工業を支える学問領域を中心とした科学技術系大学として発展してきました。今から六年前の平成十六年四月に全ての国立大学は国立大学法人になりましたが、本学は法人化と同時に大学院での教育と研究に重点を置く大学院機軸大学になりました。名実共に研究大学として生まれ変わり、グローバルに活躍できる人材の育成、先端的研究の推進、それらに基づき世界に貢献できる世界的拠点大学になることを目指しております。平成二十一年度のデータは未だ未公表ですので、平成二十年度のデータで比べますと、教員一人当たりの民間企業との共同研究件数では本学が第一位でした。企業が本学の研究を高く評価し、その成果を企業化に活用しようという現われです。全ての大学の教員が競って獲得に全力をあげている競争的資金に文部科学省科学研究費補助金があります。これはあらゆる学問分野に等しく門戸が開かれているもので、学問分野に関係なく教員の研究力を測る有力な尺度になっております。大学の数は全国で七百を超えますが、大学単位の獲得金額で比較しますと、本学は平成二十年度では二十一位、平成二十一年度では二十二位でした。本学がこの順位にいることは注目になります。何故ならば、本学よりも上位にランクされている大学は全て本学よりもはるかに規模が大きな大学だからです。いま示した二つのデータは本学教員の研究の質の高さがトップクラスにあることを示しております。皆さんはこのように優れた研究力を持つ教員が揃い、研究拠点大学へと発展しつつある東京農工大学の一員になりました。そのことに大きな誇りをもって大いに学び、人格を磨いていただきたいと思っております。

我々は現状に満足はしておりません。世はまさにグローバル化の時代です。本学では、このグローバル化の時代に相応しいしっかりとした教育と高度な研究を行う世界の教育研究拠点大学となることを目標にしております。現在、本学は世界の七十八の大学と学術交流協定を結び、人的交流や学術交流を積極的に進めておりますが、さらにそれらを加速・深化させるために、国際センターを設立し、アジア、アメリカ、ヨーロッパに本学の海外拠点を設置するなど、海外の有力大学や企業との連携を進め、優れた留学生の受け入れと本学の学生の派遣などの交流を積極的に行う体制を作りつつあります。皆さんの成長と共に、母校としてさらに誇れる世界に開かれた教育研究拠点大学へ向けて、一層の努力をしていく所存です。

以上、これからの皆様の本学における学園生活が実り多いものになることを願い、本学で学ぶにあたっての私の期待と我々が目指している大学像について述べました。今日の希

望に満ちた気持ちを忘れず、何事にも自発性と行動力を持ってあたる積極的な学園生活を送って下さい。我々も世界的拠点大学を目指して前進いたします。皆さんが明日を担う社会人として大きく成長されんことを期待いたしまして、式辞と致します。

平成二十二年四月六日

東京農工大学長

小 畑 秀 文